

令和元年度

第1回

とやまいびー

報告書

令和元年 5月25日

会場：富山大学 杉谷キャンパス
管理棟3F 会議室





【日時】 **5/25(土)**

13:00-16:45 (受付12:30)

【会場】 富山大学 杉谷キャンパス

管理棟 3F 会議室

(富山県富山市杉谷2630)

【対象】 保健・医療・福祉の学生、院生

(MI.2、DI.2.3、現職者の方の参加も可能です)

【内容】

”れんけい” ちゃ、なんけ？



*病院正面入り口から

入るっぴ!

*お車で越しの方は、

学生・教職員用駐車場を利用するっぴ!



【申し込み方法】

① <https://forms.gle/e5VHWIvdWLPW9AEA>
(QRコードよりお申し込みください)

② 事務局にメール toyamaipe@gmail.com

【締切】 **5/19 (日)**

とやまいぴーとは、
保健・医療・福祉の
学生と現職者が
「楽しくまなび合う交流の場」
です!

最新情報は

LINE で配信しています



@RCQ8302N

をフォロー下さい!

【目次】

1. 巻頭言

南砺家庭・地域医療センター
清水 洋介

2. 報告書によせて

富山大学附属病院 免疫・膠原病内科
木戸敏喜

3. 資料

*スライド資料


『～“れんけい” ちゃ、なんけ?～』

4. グループワーク1 グループワーク2

5. アンケート・振り返りシート 集計

6. 写真集

7. 名簿



巻頭言

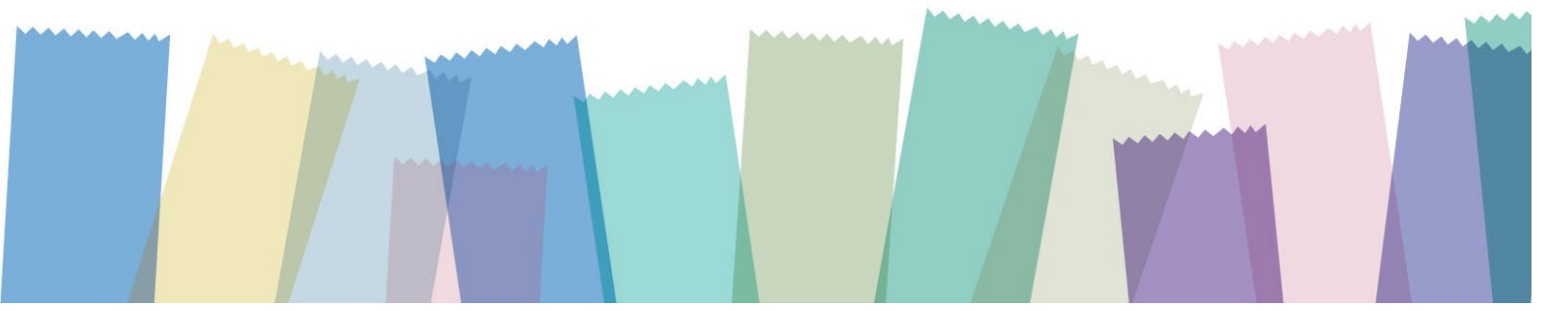
南砺家庭・地域医療センター 所長
清水 洋介

2014年に誕生し、昨年までまちなか診療所の三浦太郎氏が代表を務めておりました多職種連携教育プロジェクト「とやまいぴー」は、今年度から私、清水洋介が代表を務めさせて頂いております。

新体制になるにあたって、大事にしたことは、「皆で作る」事です。私自身の経験が乏しい事もあり皆のサポートが必要であったこともありますし、皆がリーダーであり、皆がフォロワーである事が、まさに多職種連携といえるのではないかと思ったからです。スタッフ全員で、参加者さんに何を不得欲しいか、そのためにどのようなプログラムを作れば良いかなど、活発なディスカッションを繰り返しました。出来上がったプログラムはまだまだ改善の余地がありますが、今後の改善に取り組むチームはできたと思います。

今年度からの変更点は、もう一つあります。参加者を学生さんメインにしました。ここ最近では実務者が多かったのですが、これから社会に出る学生さんに多職種連携を感じてもらうことが、将来のスムーズな多職種連携に繋がるのでは、と考えたからです。実際はどうなるか分かりません。しかし、とやまいぴーを通じて他の学部/学科の学生さんと交流し、「顔が見える」関係を作る事だけでも十分大きなことなのだと思います。その中で、実務者の役割も、この会で学ぶ事だけではなく、学生さんに実際の経験を伝えるという非常に大事な役割も出来たと思います。学生と実務者の対話で生まれる教育効果に私はとても期待しています。これから、三浦/小浦氏が産み育てた「とやまいぴー」を大きく育てていきたいと思っています。育てるのは、企画スタッフだけではありません。ここに参加してくれた皆が「育ての親」です。忌憚の無いご意見・ご感想頂ければ幸いです。

最後に、参加して下さった学生さん、そしてそれを支援して下さった各学校の先生方、実務者の皆さん。事務や報告書作成を担当した新村さん、高木さん有り難うございました。



報告書によせて

富山大学附属病院 免疫・膠原病内科

第1回代表 木戸敏喜

今回のテーマは「れんけいちゃ、なんけ」とし、学生むけに多職種連携学習についての心づもりを得ていただき、今後のとやまいぴーの参加を促すようにデザインされました。というのも、これまでのとやまいぴーでは、実務者主体に開催され、学生がまじるという形式が年々強くなっており、学生(とくに低学年)の参加のハードルが高くなっていた点が反省としてあげられたからです。

学生が IPW を垣間見るだけでは、IPE を達成にするには不十分であると考えています。参加する学生さんたちが、常に患者中心に考え、「自職種の職能を知り、限界のある場合や適切なタイミングに多職種に相談できる」ということを達成する準備のお手伝いができるよう、今回の会に臨みました。

私自身は膠原病診療に従事しておりますが、慢性経過の患者さんを担当するにつけ現場で連携そのものを肌で感じる場所があり、演じる役割の違いこそあれ、実務者であると同時に学習者であると強く自覚します。この会を通じて、多職種連携を実現するために、参加者のみなさんにできそうなこと、足りないことを自覚していただく会を目指しました。今後は、かみいちや、あさひのとやまいぴーに参加していただき、実際連携を体験できるかが課題となるのではと思っています。以上、簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

令和元年度

第1回

とやま多職種連携教育プロジェクト



資料

～ “れんけい” ちゃ、なんけ?～

2019. 5. 25

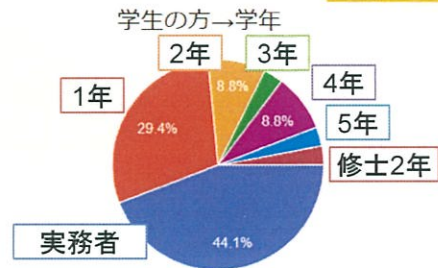
とやま多職種連携教育プロジェクト

とやま いびー

2019.5.25(土)
13:00~16:00
開始するっぴ!

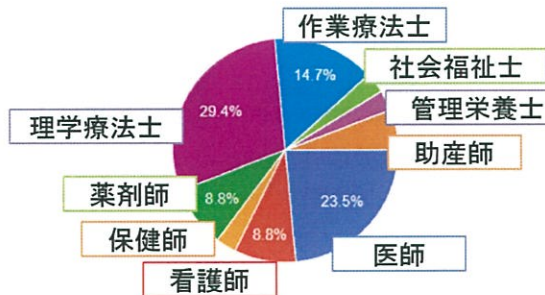
参加者分析

学生 : 55.9%



職種分析

職種or将来なりそうな職種



本日の流れ

- 13:00 スタート
- 13:05 アイスブレイク・イントロ
- 13:30 “れんけい”ちゃ、なんけ??
 - ・グループワーク (why are you here?)
 - ・多職種のイメージの共有
 - ・6年生が体験した、れんけい
 - ・国家試験 傾向と対策
- 16:00 本日のまとめ
- 16:20 記念写真撮影

あいすぶれいく



自分の誕生日覚えていますか??

*年齢では、ありません!

日付順に大きな輪になりますヨ!

では、3分でいきましょう!



簡単に自己紹介♪

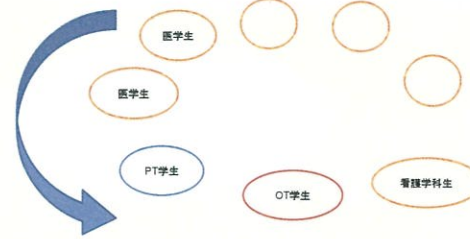
- ① ニックネーム
- ② 所属
- ③ 学科or職種
- ④ 「ひるごはん」について

* 食べていない人は、夜、何を食べたいか?でもOK



学生さん集合!

スクリーン

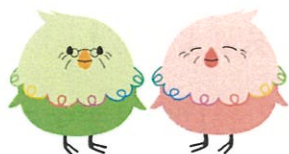


学科毎に
並びます!
そして
学科ごちゃまぜ
の4-5人の
グループに
分かりますよ~

イントロダクション



保健・医療の進歩により、人はかつてない程に
長く生きられるようになり、**救える命も増えた**



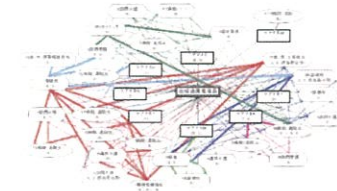
加齢による身体機能・認知機能の低下に加え、
障害・後遺症とともに生きる人も増えた

「治す」から「支える」への大転換



人は「より自分らしく生きる(死ぬ)」事を求める
(求められる)ようになり、そのような生活を支えるために、
福祉も進歩した

それに伴って...



保健・医療・福祉の仕組みは
システム上も、倫理的な側面も非常に複雑化
 してしまっ

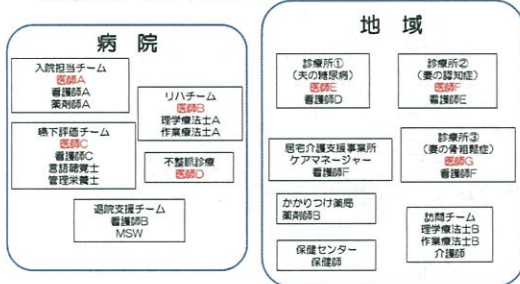
よくある話

2人暮らしの老夫婦。子供は県外に住んでいる。
 認知症の妻を、糖尿病の夫が世話している。
 ある日、夫が脳梗塞で入院。左不全麻痺に対する
 リハビリを行いつつ自宅退院。薬の量も増えた。
 ADLが低下し、自身はおろか妻の世話すら困難。
 それに伴って妻も落ち着きがなくなりました。



食事の用意は？家事は？妻の通院の付添いは？
 問題は山積となってしまった・・・

医師だけでも7人！



我々専門職はお互いの専門性を学ぶ一方で、
どの職種にも共通する考え方（患者・利用者中心性）
 があることを知り、よりよい連携を学び、実践する必要がある

IPE（専門職連携教育）

inter professional educationの略

複数の領域の専門職者が、連携の質およびケアの質を
 改善するために、**同じ場所でも**に学び、
お互いから学び合いながら、お互いのことを学ぶこと

Occasions when two or more professions learn
with, from and about each other,
 to improve collaboration and the quality of care.
 CAIPE* 2002

*CAIPE：英国専門職連携教育推進センター（1987年設立）

連携の定義

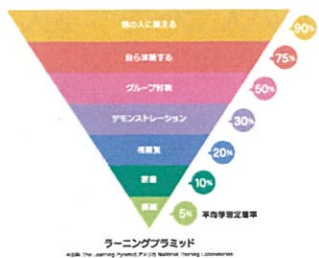
共有化された目的を持つ複数の人及び機関
 （非専門職も含む）が、単独では解決できない
 課題に対して、**主体的**に協力関係を構築して、
 目的達成に向けて取り組む**相互関係の過程**

ここでしか学べないことがある！



とやまいぴーのコンセプト

- とやまいぴーは「**学びの場**」である
 - 多職種連携教育の教育理念
 - 「同じ場所で、お互いから学び合う」
 - **アクティブラーニング**を原則
- とやまいぴーは「**交流の場**」である
 - 学校間・職種間の交流を育む
 - 教育の現場と臨床の現場をつなげる



「**アクティブラーニング**」
学習者の**能動的な学習への参加**を取り入れた学習法

社会人基礎力



協働的能力としての多職種連携コンピテンシーモデル



原典：医療・福祉の現場を支える「多職種連携力」を持つ人材育成プログラム開発事業（文部科学省 三豊大学） <http://ipelpw.org/>
 次世代の地域医療を担うリーダーの育成事業（文部科学省 筑波大学） http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/miral_ryo/

とやまいぴーのお約束！

本日の経験・出会いを共に**楽しもう！**
 批判はしない！互いに**尊重し合おう！**
ちょっと積極的にになり、一回は発言しよう！

特にお願い

先生へ：授業の評価には反映させないでね♡
 先輩へ：後輩には優しくね♡
 ベテランへ：初心者優しく誘導してね♡
 聞かぬは一生の恥！質問も大事な発言です！
 よりよいプランを作成することが目的ではない！
相互理解と良好なチームワークが目的！



やってはいけないこと！

- 宗教的勧誘！
- 政治的勧誘！
- 営利的勧誘！
- セクハラ・パワハラ・モラハラ！
- SNSなどを用いた個人の批判！
- 個人情報の流布！
- ストーカー的行為！

上記を行った方は、今後の参加を禁じます



とにかく楽しくまなびたい！

とやま多職種連携推進プロジェクト

とやま いび

最新情報は LINE で配信しています

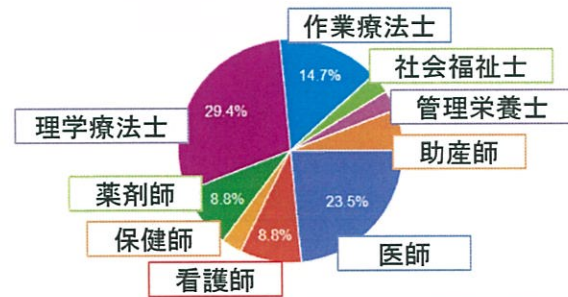
QRコードをスキャンしてフォローしてください！

#RCQ8302Nをフォロー下さい！

“れんけい” ちゃ、なんけ??



となりの人は何をする人??



①各グループにいる各職種 (3-5職種)
それぞれについて一言ずつ書く

②各グループで1職種決める
→その職種が
「できること・得意なこと」
を一言で表す

はじめまして



富山大学 医学部6年
近松 勇門(もんちゃん)



令和元年度 第1回 とやまいびー
2019年5月25日(土)

トビタテ! 日本代表プログラム
TODITATE! NEXT JAPAN





みなさん、はじめまして
富大の
ちかまつはやとです

僕は、今、イタリア ローマの
病院実習にきています

ローマのオススメは...

じゃん！

ジェラート★

今回のとやまび一のテーマである
「連携」について
実習で感じたことをみなさんと共有できたら...
と思います！

では！

しくじり学生 俺が11になるなり



ねえねえ、
多職種れんけい て
なんで必要なの？

そんなの当たり前じゃん
チーム医療が大事 て
受験勉強のとき聞いたし



1年生の僕

■ 病院実習で担当した患者さん ①

ひとり暮らしのおばあちゃん

- 自宅で転倒 救急搬送された
→ 右腕を骨折していた
- 排尿時痛もあった
→ 膀胱炎と診断した

■ 病院実習で担当した患者さん ②

ひとり暮らしのおばあちゃん

- # 右腕の骨折
→ 保存的治療で経過をみる
- # 転倒
→ 原因の病気はなさそう
- # 膀胱炎
→ 抗菌薬で治療する



6年生になれた僕

〇〇という抗菌薬をXX日間の
内服でどうでしょうか。
もう杖で歩いていますし
帰らせましょう！

薬はいいだろう。
この方、本当にこのまま帰れそうか？



ボス

6年生になれた真

〇〇という抗菌薬をXX日間の内服でどうでしょうか。もう杖で歩いていますし帰らせましょう！

薬はいいだろう。この方、本当にこのまま帰れそうか？

ボス

...

ポツッと実習してんじやねーよ!

*実際には優しい先生たちばかりなので怒られてはいません。

この方、右腕を骨折しているけれどどれくらい実際に動かせるだろう？

えっと。。。

リハビリの様子を作業療法士さんに聞いてみよう。

■ 病院実習で担当した患者さん ③

ひとり暮らしのおばあちゃん

- 近くに家族がいない
- 週2回 配膳サービスあるが それ以外は自分で用意していた

介護認定やサービス内容を見直す必要があるかも知れない！

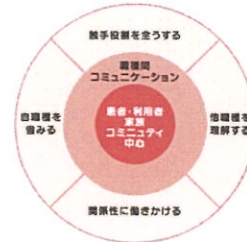
■ 目指すべき保健・医療・福祉 ①

■ 目指すべき保健・医療・福祉 ②

まとめ



協働的能力としての 多職種連携コンピテンシーモデル



基盤 兵庫 福祉の現場を支える「多職種連携力」を持つ人材育成プログラム開発事業（文部科学省 三農大学） <http://ipelpw.org/>
次世代の地域医療を担うリーダーの養成事業（文部科学省 筑波大学） http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/mira_ryoj/

連携とは

共有化された目的を持つ複数の人及び機関（非専門職も含）が、単独では解決できない課題に対して、**主体的に協力関係を構築し、**

目的達成に向けて取り組む**相互関係の過程**

「顔がわかる関係」とは

単に名前と顔がわかるという関係ではなく

「**顔の向こう側＝考え方や価値観、人となり**」がわかる関係

さらに「**顔を通り越えて信頼できる関係**」

信頼感を持って一緒に仕事ができる関係

今日学んだ事を共有しましょう 今後学びたいことを表明しましょう



次回予告！！

2019年 8月24日（土）上市町にて

←最新情報はtwitterで配信中



とやま多職種連携教育プロジェクト

とやま いびり



最新情報はLINEで配信中 →

グループワーク 1

多職種連携教育プロジェクト とやまいぴー

(1) 各グループにいるそれぞれの職種について、強みやイメージを自由に記述する。

○理学療法士

- ・リハビリ
- ・体を動かしている。
- ・積極的
- ・スポーツトレーナーっぽい。
- ・リハビリのプロ
- ・ADL向上、筋力UP
- ・在宅復帰、ENTに向けた支援。
- ・リハビリテーションの専門家（筋・骨格系）
- ・体育会系の人が多い。
- ・リハビリを行う。

○作業療法士

- ・リハビリ
- ・あまり関わりない。
- ・こまかそう
- ・退院支援
- ・ADL向上
- ・巧緻性UP（手足）
- ・リハビリテーションの専門家（生活を支える）
- ・リハビリ（生活動作）
- ・レクリエーションしている。
- ・心理や身体などの面からアプローチしたりリハビリを行う。

○看護師

- ・キツそう
- ・話すことが得意そう。
- ・医師の補助
- ・点滴したり体温はかったり。
- ・白衣
- ・体力勝負
- ・ストレス多そう。
- ・調整する
- ・いつも病棟にいる。
- ・患者さんの体調管理

- ・生活ほとんどの手助け
- ・何でも屋
- ・気が強い
- ・気が強い人が多いイメージ。
- ・採血上手い人と下手な人が多いイメージ。

○管理栄養士

- ・栄養バランスを組み合わせるプロ
- ・栄養食の提供
- ・栄養指導
- ・給食のおばちゃん
- ・食事の栄養バランスを考えたり、たりていない栄養の食材を+したりする人。

○助産師

- ・赤ちゃんをとりあげる。
- ・へその緒を切る。(正常分娩)
- ・開業権もってます。
- ・母乳のケアも得意!
- ・保健指導(妊産婦)つわり中心。
- ・女性限定
- ・看護師3年→助産師1年
- ・思春期、更年期の関わり
- ・思春期、生理の対処法
- ・更年期
- ・婦人科疾患、症状への対処
- ・女性の一生に関わる
- ・お産
- ・お母さん(ママ)をサポートする。
- ・誕生の瞬間にたちあえるすてきな仕事。
- ・夜に呼び出しが多そう。
- ・体力勝負
- ・かっこいい!
- ・コウノドリ
- ・赤子をとりあげられる。
- ・出産する時など医師の助手をする人。

(2) 各グループで職種を決め、その職種についての強みやイメージを一言でまとめ、発表する。

○理学療法士

[できること]

- ・立つ、歩くなどの大きな動作。

[得意なこと]

- ・動作分析
- ・下肢のリハビリ

○作業療法士

- ・家事によく使う動作に介入する。

○薬剤師

- ・患者さんに応じて適切に薬を扱える。

○助産師

- ・女性の一生に関わる職種

○社会福祉士

- ・「人と人、人と施設、人と社会」
- ・人・家族・社会・施設などにつなげるパイプ役
- ・情報の管理を厳重にしている。
- ・他の職種の専門性を知っているため、専門機関へのつなぎをスムーズに行うことができる。
- ・「連携マスター」

○ソーシャルワーカー

- ・「連携マスター」

○看護師

- ・何でも屋
- ・気が強い

(3) 学生が持つ「実習」へのイメージを記述する。

- ・緊張する
- ・不安と期待
- ・どのような内容なのか→レポートや実習内容
- ・患者さんと関わるのはプレッシャーがある。
- ・学習してきたことを患者さんの治療に使うことを学ぶ場。

- ・ 社会人マナーを問われるところ。
- ・ 医療者として挫折を味わうための初めての場所。
- ・ レポートが大変。
- ・ 睡眠時間ない。
- ・ バイザーの人がどんな人かが気になる。
- ・ 学生に対し、熱心な方とそうでない方がいる。
- ・ 寝れない。
- ・ 記録が多い
- ・ 実務している人に迷惑になりそうで、質問するタイミングに戸惑う。

2019. 5. 25 R1 第 1 回 とやまいびー

グループワーク 2

多職種連携教育プロジェクト とやまいぴー

(1) 医学科の学生が臨床実習で体験した連携の重要性についてのスライドを見る。

その症例について、参加者の自職種としてアプローチできること、できないことについて記述し、グループ内で共有する。

・片手が骨折しているので、どの動作をするにも1人で行うのは困難なことが多いと思う。

→家に帰るのは手がなおるまで難しいのではないか。

・おばあちゃんの家を見て、住宅改修が必要かどうか？

→理学療法士、作業療法士が見てみる必要あるかも？

・近くにいない家族はおばあちゃんをどうサポートしようと考えているのか？

→それによって退院後、施設か自宅どう生活するのかを考える。

・おばあちゃんの希望を聞く。

・左手はどの程度使えるか。

・右手の状態は？

・地域包括支援センター

・要介護認定

→社会福祉士、ケアマネ、保健師—利用できるサービスを再検討

・薬はどのように飲んでいるか。

・病院での過ごし方

・本人の意思

・ADL

・トイレ自立可

・食事

・リハビリ

・左腕で生活できるように

・自宅の改修

・介護認定

・デイサービスの利用

〈知りたい情報〉

・本人の希望（独居、杖、骨折、膀胱炎、配食）

・ケアマネ（担当）、年齢

・家族の考え

〈関わりそうな職種〉

・医師

・看護師

・ケアマネージャー

・ソーシャルワーカー

・理学療法士

- ・作業療法士

- ・薬剤師

- 医師

- ・患者の診断

- ・医療方針の決定

- 看護師

- ・入院の場合の対応

- ・家族へ電話

- ・ケアマネにE N T 支援依頼

- ・食事・更衣・排泄

- ・動作確認

- ・移動方法も

- ・精神的ケア

- 理学療法士

- ・歩けるか、寝返りや起き上がりできるか。

- ・左腕でA D L 向上

- ・リハビリ

- ・力が必要そう

- ・A D L 動作

- ・自助具

- 作業療法士

- ・左腕でA D L 向上

- ・リハビリ

- ・手先器用

- ・A D L 動作

- ・自助具

- 検査技師

- ・膀胱炎や他の合併症

- 放射線技師

- ・画像をとる。

- 言語聴覚士

- ・えん下機能？

- 薬剤師

- ・お薬の調整

- ケアマネ

- ・介護認定

- ・E N T 調整

- ・介護認定後もろもろ？

○社会福祉士

- ・退院後の調整

○管理栄養士

- ・今の栄養状態
- ・今後栄養指導
- ・計算をたくさんする。

○歯科衛生士

- ・口腔内ケア

○家族

- ・どの程度協力ができそうか、確認。

(2) 今日学んだこと、これから学びたいことを記述し共有する。

- ・作業療法士さんのことがよく分かった。
- ・理学療法士さんとの違いも分かり、何を重要にし、どんなリハビリに注力しているのか。
- ・学生さんの学びに手助けできたかよくわからなかった。
- ・富山にリハビリの学校があることを知った。
- ・現場で連携をとっていけるか不安。
- ・色々な職種ともっと関わってみたい。
- ・助産師さんの仕事ぶりを知れて良かった！
- ・他の職種のことを（得意なこと）説明できなかつたー。
- ・分からないこと知らないこと沢山！！
- ・自分の職種の強みを活用して患者と関わろうという思い。
- ・自分の強みを活用するために、もっと知識をつけなければいけない。また、多職種について知る必要ある。

(6) 過去に参加されたことがある方に質問です

とやまいびーで学んだことが実習（あるいは現場）で活かされた経験があれば
ご自由にご記載ください

- 実習経験ありません。
- 意見に批判しない尊重し合うということを大切にしています。
- 他の職種が何に注目しているかわかり、他の職種の視点で考えて関わることができそう。
- どの職種がどんなことを得意としているかがなんとなくはわかっていたので、困ったときに「あの職種の方に聞いたらいい！」と考えられました。
- 多職種の仕事内容、事例への考え方を学べた。
- 多職種と連携することが患者支援のために重要であるため、積極的に関わろうと思った。
- 他の職種の具体的な活動内容が分かったことで話しかけやすくなったこと。
- 困ったことがあれば、専門職につなげる。わりと自分の仕事では解決できないから、そこにきいてみてとアドバイス。
- 他の職種と話しをしやすくなったと感じました。
- 他職種へのアプローチの仕方がつかめた。

(7) 運営に当たり改善してほしい点はございますか？ご自由にご記載ください

- とやまいびーを知らない人が多いので、告知を広めてほしいです。
- 特にありません。スムーズな進行で、わかりやすかったと思います。
- 特にないです。
- ゲートや駐車場に、とやまいびーに関しての案内が見られなかったため、不安が残る。
- ありません。
- 明るく誰でも発言しやすい雰囲気づくりをしていただいております、全員参加しているという感じを受けています。
- (参加職種の偏りや学生・実務者の偏りもあるかと思いますが…) もっと他職種の方と関わりたかったです。学生にとっては実務者の方と関わり、臨床の話を知ることができることがなかなかないので、この機会に話せると嬉しいです。
- 名前が見にくい。
- テーブルわけを実務者と学生ごちゃ混ぜにしてほしかったです。
- 次回上市だと少し遠いかもと思った。
- 一步詳しい内容も知りたいなど。
- 話し合いの時間がもう少しあるとお互いの理解も深められていいなと思います。
- 学生だけのグループだと、フィードバックがうすいので、実務者を1人は入れてほしい。

(8) その他お気づきの点がございましたらご自由にご記載ください

- このような話し合いに参加するのがはじめてだったので緊張したところもありましたが知らなかったことを多く学ぶことができたので参加して本当によかったです。
- テーマ通り「連携」の大切さを改めて感じる機会となりました。ありがとうございました。

- 初めは緊張していたのですが、今回参加できてよかったと思いました。
- 学生（特に初参加）の方が多いと話を進めるのや、場を盛り上げるのが難しいな…と感じました。症例に対して考える時間をもう少し長くして、発表まではいかなくても実際に他職種の人から情報収集するのがあっていいかと思いました。
- 盛り上げ上手で、とても楽しく学ぶことができました。
- 楽しかったです!!

2019.5.25 R1 第1回 とやまいびー

振り返りシート

多職種連携教育プロジェクト とやまいぴー

(1) 本日特に学んだこと・印象に残ったことはなんですか？

多職種連携コンピテンシーモデルを参考にしてお答えください。

- おばあさんの症例からかかっている職種が改めて多いなと思ったことと、助産師さんについて、生理や更年期の方など意外だなと思いました。
- 自職種の専門性（得意なこと、自分では解決できないこと）をふまえ、他職種の専門性を頼ることが「患者さんのため」につながる！
- 看護師・助産師・理学・作業と違った分野で働いている方と話しができた。
- 多職種間のコミュニケーションは欠かせないと改めて感じた。
- 他職種が連携することで患者さんの満足度を上げる。
- それぞれの職種が独立して対象者にかかわるのではなく、職種間とのつながりをもたせる必要があるということ。
- 職種のイメージをチームで話す。
- PTの実習のイメージ
- 色々な職種の役割・気持ちを理解することで、患者さんのための連携がより適切にできるようになると思う。他の職種について話を聞くことで理解が深まった。
- 時間の関係で流されたので印象がない。
- 学校では自身の職種についてしか学んでおらず、ほかの職種について、連携について、考える機会がほとんどなかったので参加してよかったです。
- Ptを中心として、多職種協働。
- 他職種について学べ、何を学んでいるか、何を重要にして考えているか、思考を知った。
- 他職種の大変さ。仕事内容。
- 連携のことを考えるには、他の職種も知っておかないといけないなと感じました。
- 患者中心
- 他職種の理解が深まった。
- 1人の患者さんに対して、複数の人が関わること、関わりあいながら患者さんの自立をみんなで手助けすることがわかりました。
- 「自分の職種では患者さんに対して何ができるか。」「自分の職種ではできないことはどの職種ができるか。」と考え患者さんにできる最善策を考えることが大切だと思いました。
- 自分自身だけで抱えこむのでは他職種につなぐことで解決につながることに。
- 自職種の強み、限界、他職種の強み、弱みを考えて連携していくこと。
- 社会福祉士すごいです。目からうろこです。まずは困ったら、つかまえるように伝えますし、私も頼りにします。
- ソーシャルワーカー意味が分かりました。
- 本人主体を共通目標とすることで、多くの職種でもぶれずに連携できると感じた。
- 自分ではまいぴーベテランと思っていたが、他職種については思っていたよりも知識が浅いと気づいた。
- 症例をもとにカンファレンスを行ったこと→さまざまな考えを共有することができた。

- 連携の大切さ。

(2) 本日の研修会を通じて「うまくできたな」と思ったことはありますか？

- 様々な職種について知ることができた。
- 自職種の強みを少し説明できた…かな？
- 年齢層がバラバラでもいろんな方とコミュニケーションをとることができた。
- 助産師はお産だけをとり扱う職種ではないことを伝えられたこと。
- GWの際に、司会・書記・発表者などの役割を決めることを提案し、スムーズな進行ができるように努めたこと。
- 自分の考えをグループで伝えることができた。
- 事例についての話し合いと、感想についての発表、みんなの学びを聞いて、自分自身より深く考えられる。
- 多職種連携について学んだことを、人に対して口頭で語ることができたこと。
- 発表した際に拍手をもらったので自信につながりました。
- 意見を出す、聞くということ。
- GWがすすみやすく、雰囲気を作れたかなと。
- 上手く意見を出し合うこと。
- 先輩の方が進めてくださり、自分の意見も言うことができて良かった。
- グループワークはうまくいった。
- テーマトーク
- 姉が看護師できいていた話をうまく出すことができた。
- 皆に発言を促すよう声かけできた。
- 話し合いの場で自分の意見を出すことができました。
- 相手の話をよく聞くことができた。
- 発言を積極的に行うことの大切さが分かった。
- 自身の職種について多角的な意見が聞けたこと。
- Gワークでメンバーの話を聴くこと。
- 自分の意見が言えました。
- 自分の役割をはっきりさせられた。
- 各職種の概要はぱっと思い浮かんだ。
- 自分の考えをグループ内の人に伝えることができた。
- グループ内で意見・発表。

(3) 本日の研修会を通じて「うまくいかなかったな」と思ったことはありますか？

- 自分の意見があまり持てなかった。
- 1・2年生の意見をもう少しひっぱって出せたらよかったと少し反省です。
- 1年生という部分もあったが知識を増やし自分の意見もだしていけるようにしたいと思った。

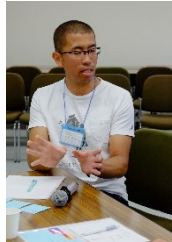
- 発表では緊張してしまって、前を向いて話せなかったこと。
- 質疑応答の際に、どう考えてもコメントしすぎたこと。
- 話をふられたら答えれたが、自分から積極的にそこまで話せなかった気がします。
- 発表でみんなの意見を上手くまとめて、伝えることができなかった。重要なことを「伝えられる・心に残る」発表をしたい。
- 実務者の方にもう少し近づいていけばよかったかなと思う。
- 初対面の人とコミュニケーションをとることが、たいへんでした。緊張しました。
- 自分の将来なる職業のえきることをもっと知ること。
- どの職種と連携するか、考えるのがとても難しかった。
- うまく発言をまとめられなかった。
- あいまいな話（おばあちゃんのケース）でプランを立てる。
- 言葉は知っていたけど、内容はよく知らなかった。
- あまりファシリテーターとして上手にできなかった。
- 実務者の方や学生の先輩に積極的に質問することができなかった。
- 自身の知識不足を感じた。職の枠にとらわれず、外に足を踏み出すことが大事だと思った。
- もっと自職種の強みをうまくピアーールできたらよかったかな。
- 司会はムズかしいです。
- ほかの職種の話をもっと聞けたらよかったと思った。
- 低学年に解説すること。
- 症例のイメージがイマイチつかなかった。

(4) その他感想・気づいたことなどを自由に記載ください。

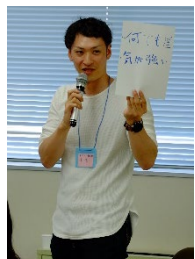
- 今後もよろしく願い致します。
- 初めての参加でしたが、いろんな方と話しができたり、知らなかったことが学べたので良い経験になった。
- いつもは助産師がいなかったけど、今回は助産師について話を共有できたのがとても嬉しかったです。
- 色々な職種の方のお話が聞けてよかったです。
- もし時間があれば、席の組み合わせをシャッフルするのもいいと思う。
- 今回は学生が多くて、参加して気が楽でした。
- 前回同様話しやすい雰囲気づくりをしていただき、緊張せず参加できました。ありがとうございました。
- 面白い方が多くて、とても楽しめた。
- 他の職種からのイメージを聞いてよかった。
- たくさんの種類の医療の話をきけて興味深かったし、楽しかった。
- 現場の要望に合わせて、じゅうなんに対応していて良いと思った。
- 異業種の人からの話を聞き良い刺激を得れました。月・火・金にテストがあるのですが勉強するモチベーションが上がりました。

- 国試対策いいネ!!
- 国家試験で多職種の問題があるとはしなかったです。
- 来る前は実際に何をするのか不安だったのですが、講義は楽しく学べることも多かったのて来てよかったと思います。
- 他の職種について新しく学べたことが多くてよかった。

2019.5.25 R1 第1回 とやまいびー



写真集 2019.5.25
～“れんけい”ちゃ、なんけ?～



集合写真





令和元年度 第1回とやまいびー参加者名簿

	ご芳名	ご所属	学部学年	グループ
No.1	渡 辺 一 海	富山大学附属病院 朝日・地域医療支援学講座	医師	A
No.2	浦 上 孝 徳	友愛温泉病院	理学療法士	A
No.3	島 田 英 子	富山市医師会看護専門学校	保健師	A
No.4	島 田 佳 奈	富山市民病院	社会福祉士	A
No.5	原 井 厚 子	アイン薬局富山大学病院前店	薬剤師	A
No.6	吉 田 弥 生	石川県立中央病院	医師	B
No.7	福 田 晋 平	かみいち総合病院	医師	B
No.8	吉 波 美 穂 子	富山医療福祉専門学校	作業療法学士	B
No.9	北 林 正 子	富山県立大学 看護学部	看護師	B
No.10	浅 野 恭 平	富山県富山市	薬剤師	B
No.11	鳥 越 美 沙 子	富山大学	医学部 (学生 5年)	C
No.12	笹 尾 歩 美	金沢大学	作業療法学科 (学生 4年)	C
No.13	吉 川 真 央	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 1年)	C
No.14	野 崎 慈 乃	富山リハビリテーション医療福祉大学校	作業療法学科 (学生 2年)	C
No.15	石 田 紗 那	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 1年)	C
No.16	岩 田 知 也	黒部市民病院	看護師	D
No.17	大 黒 良 行	富山大学	看護学科 (学生 M2)	D
No.18	二 本 松 萌 香	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 1年)	D
No.19	岡 田 遥 香	富山リハビリテーション医療福祉大学校	作業療法学科 (学生 1年)	D
No.20	吉 田 み ち る	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 2年)	D
No.21	木 工 達 也	富山大学	看護師 (学生 M2)	E
No.22	義 基 貴 史	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 (学生 3年)	E
No.23	青 山 あ き ら	富山県立総合衛生学院	助産学科 (学生 1年)	E
No.24	古 川 愛 純	富山リハビリテーション医療福祉大学校	作業療法学科 (学生 1年)	E
No.25	野 村 な ぎ さ	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 1年)	E
No.26	豆 本 真 理 恵	富山大学	管理栄養士	F
No.27	三 見 満 里 奈	富山県立総合衛生学院	助産学科 (学生 1年)	F
No.28	中 川 来 香	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科 (学生 2年)	F
No.29	牧 野 幸 恵	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 (学生 4年)	F
No.30	山 崎 真 凜	富山リハビリテーション医療福祉大学校	作業療法学科 (学生 1年)	F
No.31	秋 元 俊 子	富山リハビリテーション医療福祉大学校	理学療法学科	
No.32	渡 辺 史 子	富山市まちなか診療所	医師	
No.33	清 水 洋 介	南砺家庭地域医療センター	医師	
No.34	木 戸 敏 喜	富山大学附属病院	医師	
No.35	村 山 大 輔	さくら薬局富山大学前店	薬剤師	
No.36	堀 田 麻 緒	富山西リハビリテーション病院	理学療法士	

連続

連続

とやま

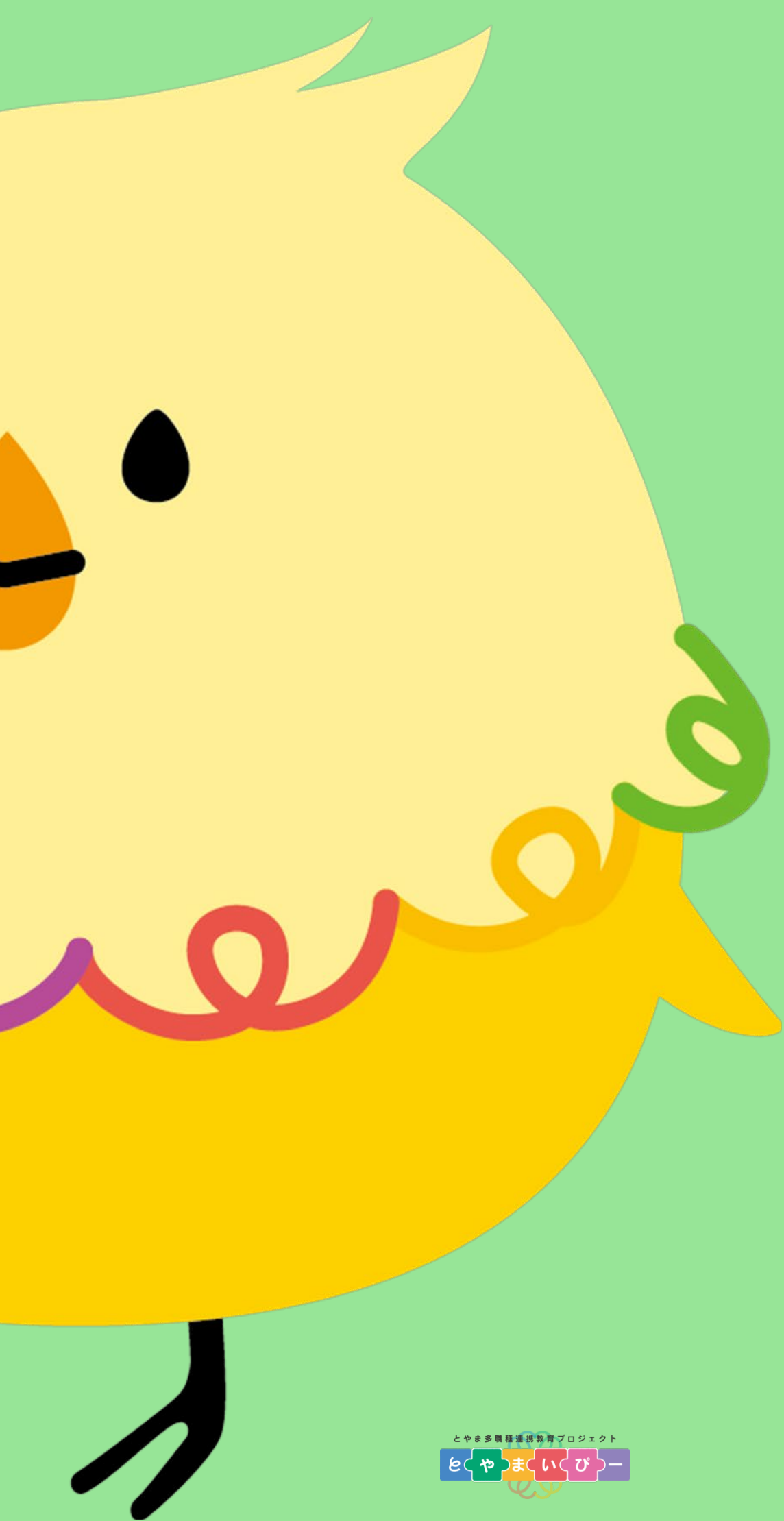
TOYAMA IPE

とやまいピー

場

I
P
E

連続



とやま多職種連携教育プロジェクト

